

講義ユニット名	循環器		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	きはら やすき 木原 康樹	所属	循環器内科 (内線 6829)	
		メール	ykihara@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	くりす さとし 栗栖 智	所属	循環器内科 (内線 2313)	
		メール	skurusu@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>1、心・血管系の解剖、生理、生化学などの知識に基づき病態や疾患概念を把握する。</p> <p>2、病歴聴取、身体診察、心電図・レントゲンなどの基本的検査法を理解し、疾患の診断方法について学ぶ。</p> <p>3、疾患に対する標準的な治療法について学ぶ。</p> <p>4、現代社会においての心・血管病の制圧の重要性、予防医学の重要性についても学ぶ。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。</p> <p>心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>心筋細胞の電気現象と心臓の興奮<刺激>伝導系を説明できる。</p> <p>興奮収縮連関を概説できる。</p> <p>体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる。</p> <p>大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。</p> <p>頭頸部と四肢の主な動脈を図示し、分布域を概説できる。</p> <p>主な静脈を図示し、門脈系と大静脈系の吻合部を説明できる。</p> <p>毛細血管における物質・水分交換を説明できる。</p> <p>胸管を經由するリンパの流れを概説できる。</p> <p>心周期にともなう血行動態を説明できる。</p> <p>心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。</p> <p>主な臓器（脳、心臓、肺）の循環調節を概説できる。</p> <p>血圧調節の機序を説明できる。</p> <p>血流の局所調節の機序を概説できる。</p> <p>運動時の循環反応とその機序を説明できる。</p> <p>心電図検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>胸部エックス線写真と断層心エコー図から心臓・大血管の画像診断を説明できる。</p> <p>心カテーテル検査（心内圧、心機能、シャント率の測定）と結果の解釈を説明できる。</p> <p>心不全の定義と重症度分類を説明できる。</p> <p>心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。</p> <p>左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>急性心不全と慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>安定狭心症（労作性、冠攣縮性）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>急性冠症候群（急性心筋梗塞、不安定狭心症）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>主な頻脈性不整脈（期外収縮<上室性、心室性>、Wolff - Parkinson - White（ウォルフ・パーキンソン・ホワイト）症候群、発作性上室性頻拍症の心電図上の特徴を説明できる。</p> <p>主な徐脈性不整脈（洞不全症候群<sick sinus症候群>、房室ブロック）の心電図上の特徴を説明できる。</p> <p>致死的不整脈の心電図上の特徴を説明できる。</p> <p>不整脈の治療（抗不整脈薬、電氣的除細動、ペースメーカー療法）を概説できる。</p> <p>主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の病因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>感染性心内膜炎の病因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>特発性心筋症と二次性心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。</p> <p>アミロイドーシスを概説できる。</p> <p>心筋炎の病因と症候を説明できる。</p>			

	<p>急性心膜炎の症候を説明できる。</p> <p>心タンポナーデの病因と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>主な先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存、Fallot（ファロー）四徴症）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>動脈硬化症の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。</p> <p>大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。</p> <p>閉塞性動脈硬化症とBuerger（バージャー）病を概説できる。</p> <p>大動脈炎症候群<高安動脈炎>を概説できる。</p> <p>深部静脈血栓症[DVT<deep vein thrombosis>]の病因と症候を説明し、治療を概説できる。</p> <p>上大静脈症候群の病因と症候を説明できる。</p> <p>下肢静脈瘤を概説できる。</p> <p>リンパ浮腫の病因を列挙できる。</p> <p>本態性高血圧症の疫学、診断、合併症と予後を説明し、治療を概説できる。</p> <p>二次性高血圧症の病因を列挙し、診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>肺性心の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>肺血栓塞栓症の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>肺高血圧症を概説できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。</p>
<p>推奨参考書</p>	